



第二ぎんなん便り

社会福祉法人 つなぐ育成会
第二ぎんなん作業所
平成28年5月26日発行
第360号

1ヶ月半が過ぎて

これまでの1ヶ月半、利用者と一緒に畑仕事をしたり、空き缶つぶしをしたり、古新聞やアルミ缶の回収に行ったり、回収した古新聞やつぶしたアルミ缶を回収業者に持って行ったりと、いろいろな作業をしてきました。



私自身、ここ15年ほどずっとデスクワークの仕事だったので、体を動かすのは、実に15年ぶりだなと思いつつ、一緒に作業に励んでいるところです。

1ヶ月半を過ぎて、利用者の性格や様子もだんだんと分かって来ました。皆さん、それぞれ個性豊かで、一緒にいてとても楽しい人ばかりです。

今まで学校で障がいのある児童生徒と関わって来ました。作業所にいる人たちは成人なので、周囲とのやりとり、集団参加の姿など、長い間の生活経験や作業経験で身につけたその人なりの行動や力が随所に見られるなと思います。

たとえば、朝早く登所する女性は、干してあった軍手を自分から自発的に1対にしてかごに入れてくれますし、別の女性も、朝、その日のスケジュールボードに日付を書き込んでくれています。

作業に関しても、自由な時間にはすごくおしゃべりな人も、作業中は黙々と取り組む姿が見られて、さすが集中力や持続力が違うなと、成長期にある児童生徒の成長とはまた違った、大人の人成長の跡、姿を感心しながら眺めているところです。
(高橋)



アルミ缶つぶしの作業



竹工の作業



今、農場では

農場では昨年に続き今期もニンニクとジャガイモの栽培を行っています。ニンニクは昨年10月、ジャガイモは3月に植え付けました。いずれも収穫が近いのでこれから作業が忙しくなるところです。



農耕担当の太田家です

肥料には作業所の竹工で出た竹粉と米ぬかを混ぜたものを使い、安全、安心な野菜を販売できるようにしています。



竹粉と米ぬかの肥料作り



ジャガイモ追肥・土寄せ



ニンニクの芽の収穫

以前お伝えしましたように、今年はニンニクとジャガイモの栽培面積を増やしているの、頑張っって売上げを増やしたいところです。

農場では以前からいろんな作物を栽培してきましたが、週2回と限られた活動時間とカラスの被害などの経緯から、今の品目に落ち着いています。

農耕作業では、それぞれの利用者に応じた仕事を頼み、楽しみながら行える作業を目指しています。

今期は新施設長を迎え、収益アップも含め活動内容の充実を心がけ、利用者皆さんの意欲向上につなげることができればと考えています。

地震やその後の雨で一時停滞していました作業も再開しました。これからは、日中の気温も30℃越えるので体調管理に気をつけながら作業に取り組みたいです。

ニンニクは一部収穫が始まっています。天日干しでの乾燥を経て販売準備を進めているところです。青森県産ニンニクにも負けないうでですのでご期待ください。
(太田家)



ニンニク販売間近

※裏面があります

文書集配業務に同行して

作業所の主要な作業業務に、熊本市の行政文書を区役所や出先機関へ集配して回る信書便集配があります。

ドライバーさんと利用者がペアとなり、3コースをそれぞれ1日かけて回ります。最も長い距離のコースで130km以上、最も集配ポイントが多いコースでは38カ所にもなります。

集配業務に同行してみて、ドライバーさんも利用者も、大切な信書・文書を、事故なくミスなく集配するという使命感を持って、取り組んでいることがよく分かりました。

地震直後は、区役所や出先機関にも多くの方が避難なさっていて、その方々の間を信書袋を持って行ったり台車を押して回ったりということもあったようです。また、道路が各地で寸断されたり陥没や隆起があったりして大渋滞の中を回ったりと、大変だったとのことでした。

大切な信書・文書を、事故なくミスなく集配するため、今後も安全運転や確実な集配に努めていきたいと思います。
(高橋)



たくさんの文書の台車を
押して中央区役所を出発



集配車から信書便を
降ろして台車で運搬



出先機関での
配達と文書受け取り



大地震、その後

4月14日(木)に始まった「平成28年熊本地震」は、2度にわたる震度6や7で甚大な被害を出した後、40日以上が経過する今も、減りはしたものの、まだ余震が続いています。

私たち大人でも、家にいるときや夜寝ている時に震度2や3など少し大きな地震が来ると、また震度7や震度6の地震なのではないかという不安に襲われます。これがいわゆるトラウマ(心的外傷)というものでしょうが、まだストレス耐性が十分できていない幼児児童、そして、障がいなどで状況判断や情報の処理が難しい人たちにとっては、本当に恐ろしいことでしょうし、なかなか消えない心の傷となってしまうかも知れないと心配するところです。本当に1日も早く終息を祈るばかりです。

ところで、H7年1月17日の阪神淡路大震災、H24年3月11日の東日本大震災では、多くの方々が自宅を失ったりして、長期間、避難所や車中でのつらい生活を余儀なくされました。

そのような中、障がいのある人たちとその家族はどのように生活や避難をしていたのか、とても気になるころでした。自閉症の子どもさんがいて避難所では他の人に迷惑がかかるからと、母子で車の中で寝泊まりしたという話も聞きました。

今回の熊本地震でも、高齢者や障がい者を対象とした福祉避難所は指定されていても、多動や奇声、パニックがあったり集団参加が難しかったりする人たち(とその家族)などの場合、体育館など人が大勢いる避難所への避難をせずに、車中泊や壊れかけた自宅にいるという報道もありました。同じような話を、直接知り合いの親さんから聞くこともありました。

一般の避難所、高齢者や障がいのある人たちの福祉避難所に加え、集団への参加が難しい障がいのある人とその家族が避難できる避難所・場所と受け入れる仕組みも必要だと思いました。このことは、2つの大震災でも課題として出されていましたが、今回の大地震でも、臨機応変に対応できるといいなと、地震発生当初から思っていたところです。

2回の大地震から40日以上が経過して、少しずつ日常の生活に戻りつつあります。普通の生活のありがたさを感じつつ、「がんばろう熊本」、県民一人一人ができることをやってまいりましょう。
(高橋)



がんばろう熊本